

ミライ の武器

「夢中になれる」を見つける授業

Strength of the Future

*The place that you can find
your passion*

吉藤オリィ

ロボット開発者

sanctuary books

これから未来になって、
ぼくらはなにが変わるんだろう？



つまらないなら

おもしろいなにかを、

「ぼくらで」つくりだせばいい。

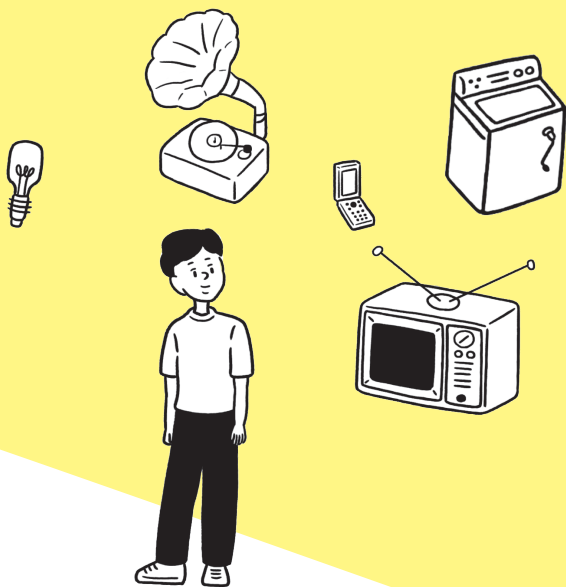
やりたくないなら

やらなくて済むなにかを

「ぼくらで」つくりだせばいい。



いまは
「こうしたい」
という夢の数よりも
願いを実現させてくれる
道具の方が多くなった。



いつから

そんなふうになった？

歴史的に見れば、

つい、さっき。

これからどうなるかは、

だれも知らない。





ぼくらは、そんな

ワクワクする時代を生きている。

まえがき

こんにちへ。この本を手にとつてくれてありがとう。

私は発明家のオリイ、ロボット開発者の吉藤オリイです。

きみには「夢中になれること」があるだろうか？

私は「やらなきゃいけないこと」があまりできない。「常識と言われるもの」「当たり前のこと」もあまりわからない。でも「夢中になれること」だけはずっとある。そのおかげで、いまでは寝る間も惜しんで、研究や発明にずっと夢中になつていゝことができる。

時間を忘れて、夢中になりながら、生きていく。

それは私にとつては自然なことだが、簡単なことではないとは理解している。きつときみは、「夢中になれること」と「我慢してやるべきこと」の間で悩ん

でいることだろう。そして大人になれば、生きていくために「夢中になれること」を手放してしまう人が多いことも、知っているはずだ。

でも、これだけは言える。

これからの時代は、たとえ「人と同じこと」「我慢してやるべきこと」だけを上手にこなせても、生きていくのは難しくなる。

なぜならテクノロジーによって、世の中に存在していた「我慢してやるべきこと」はさまざまな形で解決されていくからだ。

その一方で、「夢中になれること」がきみを救う。

世界はまだなにも、完成していない。きみが「夢中になって取り組むこと」は、この世界でまだ見つかってない無数の価値や課題を見つけることになる。

それも他人から出されるものではなく、自分の直感に従って、自分のセンスで新しい価値と楽しさをどんどん見つけ、夢中になって、人生に挑むことができる。

この本は「夢中は身を助く」という私の信念に基づき、これから時代をつくっていくきみたちが大人になる前に知っておいてほしいことや、私の一風変わった

経験、夢中でやってきた研究から学んだことを、できるかぎりわかりやすく伝えたいという思いでまとめたものだ。

いま熱中していることがあるきみにとってはためになる話を、いま熱中しているものがないきみにとっては、なにかに熱中してみたいと思ってもらえるような話をしたいと思う。

私たちはいま、急激に変わる歴史の真^ま只中^{ただなか}にいる。

1年前の「当たり前」と1年後の「当たり前」は大きく違^{ちが}い、もはや正義やモラルすらも変化している。

生き方に「正解」などなく、自分の生き方は自分で決め、選択していく時代だ。まわりのみんなとは少し違^{ちが}って、不安になったとしても、自分の頭で考えて、手を動かし、「誰かによろこばれる、次の時代をつくる人」をめざしてほしい。

Strength of the Future

*The place that you can find
your passion*

ミライの武器

目次

Contents

1

時間目

自分の違和感に気づく力

Lesson 1

みんなと違っても、
自分が思ったやり方でやってみる。

20

Lesson 2

しかられても、
簡単にめげない。

30

Lesson 3

失敗してもいいから、
先に形にしてみる。

34

Lesson 4

我慢はしないと決める。

39

Contents

Lesson	Lesson	Lesson	Lesson	Lesson	Lesson
10	9	8	7	6	5
人と違うことを おそれない。	期待をせずに、 挑戦してみる。	「逃げる」選択肢を持つ。	「なりたい」ではなく 「したい」を見つける。	あるものでやってみる。	知っている人に聞く。
64	59	55	51	48	44

2

時間目

とりあえず試す力^{ため}

Lesson

11

さわるのが先、知識は後。

Lesson

12

「そんなもんだ」に
納得^{なっとく}しない。

Lesson

13

もういいかと思っても、
もう一歩こだわる。

Lesson

14

「なぜやっているの？」を考える。

Lesson

15

「おしまい」を考えることの強さ。

92

84

79

75

70

Contents

Lesson	Lesson	Lesson	Lesson	Lesson	Lesson
21	20	19	18	17	16
「自分」を知ろう。	なんのためなら がんばれるかを思い出す。	小さな失敗を積み重ねる。	はじめから 理解してもらえと思うわない。	「自己紹介」を決めておく。	違うと思ったら、 さっさと変える。
117	114	110	106	100	95

3

時間目

「できない」を価値にする力

Lesson 22

できないことは、
分解して考える。

124

Lesson 23

「できない」「わからない」
人の側から考える。

131

Lesson 24

「できない」は価値になる。

134

Lesson 25

なにが大事なのか？
から考える。

145

Lesson 26

「すごいもの」より、
「できたもの」をまず見せる。

150

Contents

Lesson	Lesson	Lesson	Lesson	Lesson
31	30	29	28	27
あきらめず、発信し続ける。	大先輩と友だちになろう。	リアクションが人を育てる。	みとめてくれる人のそばにしよう。	この広い世界で、人に会いに行こう。
176	170	165	162	156

4

時間目

誰かに発信する力

Contents

さいごの時間

託す力^{たく}

あとがき

220

191

1

時間目

*The place that you can find
your passion*

自分の違和感に 気づく力



Lesson

1



みんなと違^{ちが}っても、
自分が思ったやり方で
やってみる。

いつもはみんなに合わせるとしても、
たまには自分の思ったやり方でやってみよう。
最初は勇気があることかもしれないが、
その小さな挑^{ちようせん}戦がきみを強くする。

将来なにになりたい？ そう聞かれることもあるだろう。

そんなときは堂々と「わかりません」と答えていいよ。わからないものを「わからない」と言うことは大切だ。世の中は変化しているからだ。

人類ははるか昔から進歩しているが、その変化のスピードは2000年ほど前と現代とはまるで比較にならない。

たとえば人類の必需品である水道。家の中に蛇口がなかった昔、川から水を汲むというのは重労働だったし、水質に問題もあった。家に水道が通ったのはいまからたったの130年前のことで、60年前の時点でも、各家庭の水道の普及率は40%だった。

夜でも部屋を明るく照らす「電灯」が、一般家庭に普及したのは1915年くらい。たった100年と少し前だ。まだ「コンセント」はなく、家電を使うためには電球のソケットから電気を分岐させるアタッチメントプラグというものを使っていた。

日本でテレビが発売されたのが1953年で、携帯電話が普及しはじめたの

が1990年。私たちの生活の「当たり前」が、「当たり前」になったのは本当に最近のことなんだ。

さらに2000年代よりも、2010年代の方が進歩のスピードが早い。20年前にタイムスリップしたら、きみは生活の不便さや価値観の違いに驚くことだろう。

そして、次の10年間はもっと激しく進歩する。

無数のモノやサービスが登場しては、消えていくだろう。

いまの時点で「ユーザーになりたい」と心に決めたとしても、はたして10年後にユーザーが存在しているかどうかもわからない。

こういう時代を生きるには、「周囲にふりまわされず、新しいものを取り入れながら、自分にとって大切なことをやり続ける」ことが重要になる。

それは、「誰かに言われたからやる」というのでも、「誰かに嫌われないようにやる」というのでもない。自分と向き合うことが、これまで以上に重要になって

くる。

誰かに「それいいね！」と言われてはじめてことが、来年には時代遅れおくになっていることだってあるし、「ありえない……」と言われてやめかけたことが、後に賞賛を受けることだってあるからだ。

これからは自分が「ワクワクすること」を自由に考え、手を動かす時代だ。じゃあ、試ためしにちよつと自由に考えてみようか。

これは私の10年前。23歳さいのときの顔だ。もちろんいまでは顔が変わっている。しかし私のことを知っている人ならば、この写真を見れば少し若い頃ころの私だとわかる。

きみは見知らぬ他人の顔をぱつと見て、その人の年齢ねんれいを当てることができるだろうか。見た目とギャップがある人もいるが、自分よりも年上か年下かくらいはだいたい想像がつくと思



10 年前の写真

う。

年齢^{ねんれい}だけじゃない。私たちはいままで他人のことを、その人の顔と名前によって判別^{はんべつ}してきた。

他人を見たときに、「怖^{こわ}そうなんだ」とか「優^{やさ}しそうな人だ」とか、見た目で判断することってあるよね。

私たち人類は、生まれたときからずっと、自分の顔と自分の名前で、それが自分だと認識^{にんしき}してきた。

当たり前？ でも、そんな当たり前のことすらも変わるだろう。

いまの時代の人は自分の見た目や名前を変えることもできる。

まず整形しようと思えばできる。手術で全然別人の顔になれる。メイクや髪型^{かみがた}を変えるだけでも、別人のようになれる。メガネをかけてマスクもすれば、その人が誰^{だれ}なのかほとんどわからなくなる。



現在の写真

私は昔から身体が弱かったため、何度もCT検査を受けてきた。

CT検査というのは、エックス線を使って身体からだの断面を撮影さつえいするものだが、あの検査を受けると全身のデータが残る。

そのデータは3Dデータだ。そのデータを3Dプリンタに入力すれば、そのままの形ができあがる（CT検査を受けたとき、お医者さんに言うのとくれるよ）。

つまり理科室に置くような自分の骨格標本や内臓標本をつくって、自分の部屋に飾かざることができるわけだ。ワクワクしない？

CT検査じゃなくてもいい。きみの持っているスマホを使って、自分の顔をいろんな方向から撮影さつえいしておけば、そのデータを家庭用の3Dプリンタに入力することで、いますぐ自分の像ができあがる。自分の胸像をつくって、庭に置くことだってできる。これは「フォトグラメトリー」という、写真データから3Dモデルをつくる、よく使われている技術だ。

フォトグラメトリーによって、**いまではスマホだけで簡単に世の中の物体を3Dデータ化できるようになっていて、3Dプリンタがその形状を出力してくれる。**